

国有林の森林計画に関する 地区懇談会 四万十川森林計画区



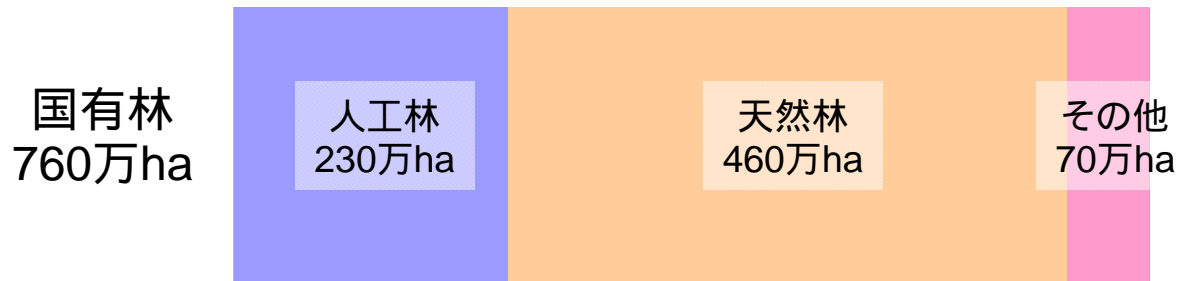
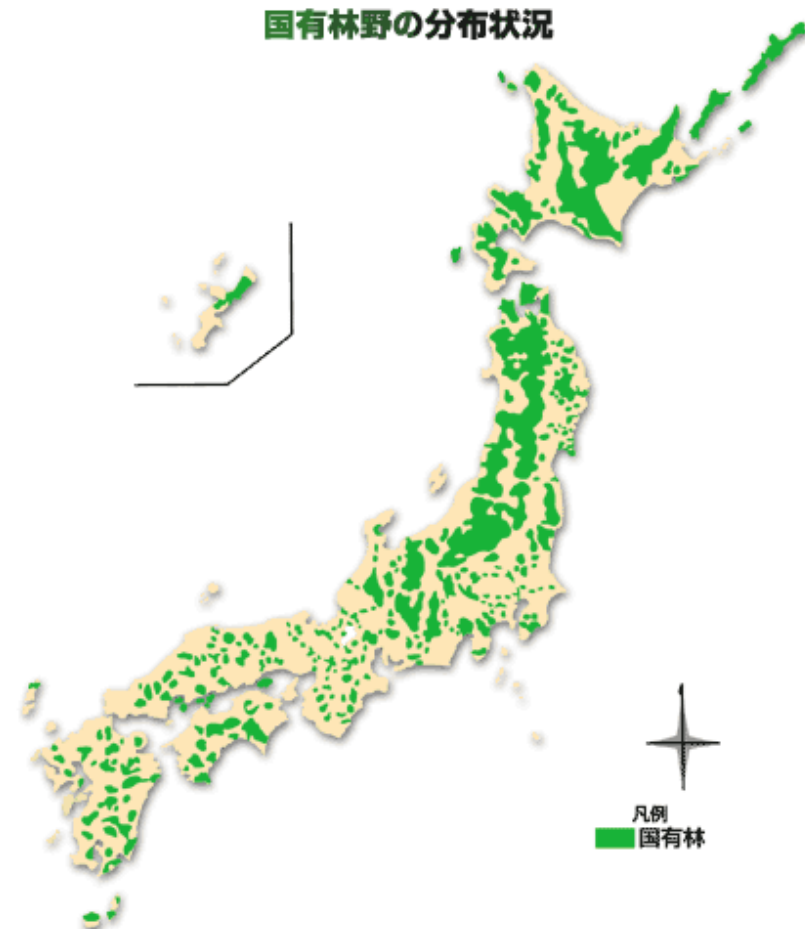
くらしを育む・国有林

国有林と現行森林計画の概要

平成22年9月27日
四国森林管理局
四万十森林管理署

国有林とは

- 日本の森林：
約2,510万ha
(国土面積の約7割)
- 民有林 約1,700万ha
- 国有林 約 760万ha



国有林の目標

目標

1. 国土の保全その他国有林の有する公益的機能の増進
2. 林産物の持続的かつ計画的な供給
3. 国有林野の活用による地域の産業の振興または住民の福祉の向上への寄与

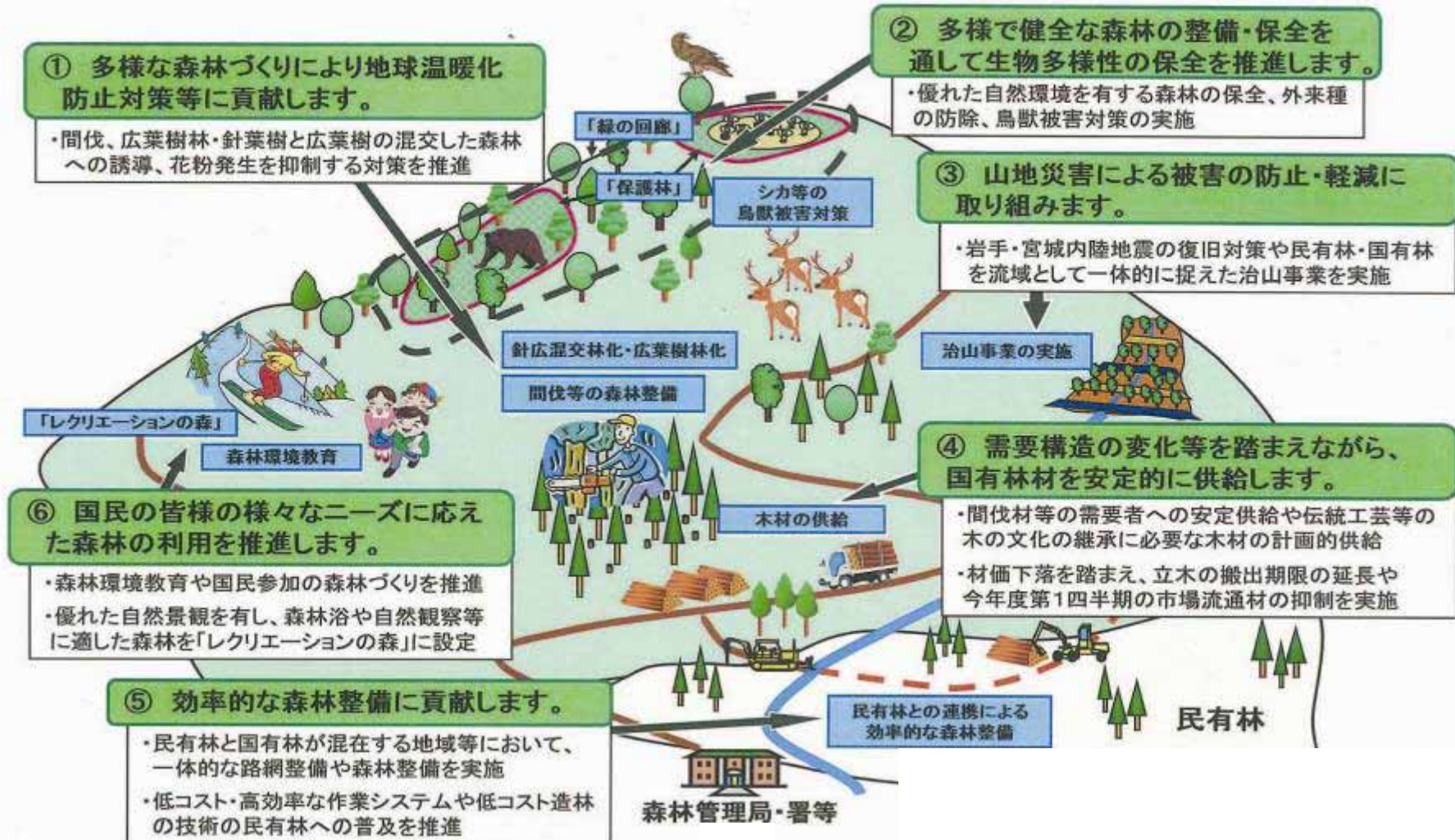
基本方針に即した管理経営

1. 公益的機能の維持増進を旨とした管理経営
2. 森林の流域管理システムの下での管理経営
3. 国民の森林としての管理経営

国有林の取り組むべき課題

第4章 国有林野編

～ 国民生活を支える森林づくりに向けて ～

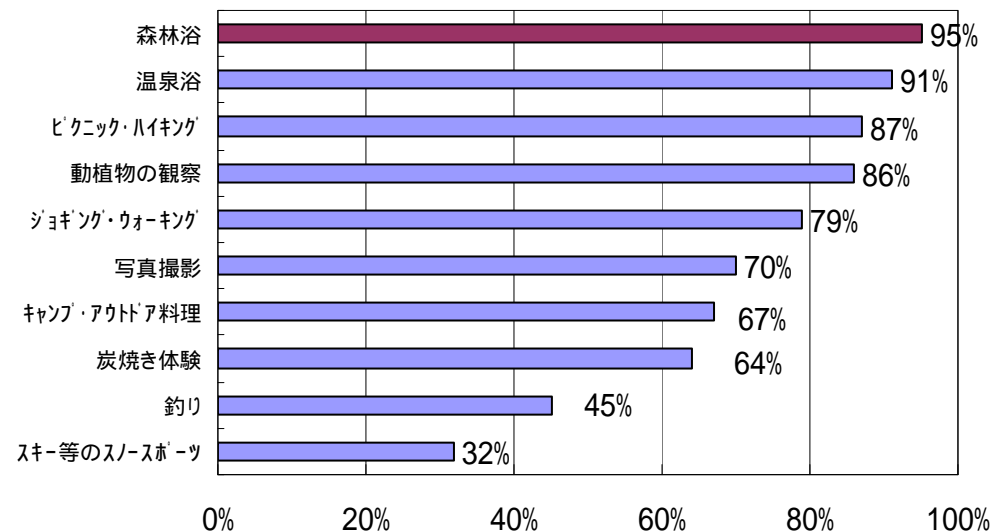


森林に対するニーズの多様化

b. 保健文化機能の高度発揮



今後における森林レクリエーション利用の意向



資料：「森林と人との共生林」（森林空間利用タイプ）の促進に関する調査研究
（平成14年（財）林政総合調査研究所）

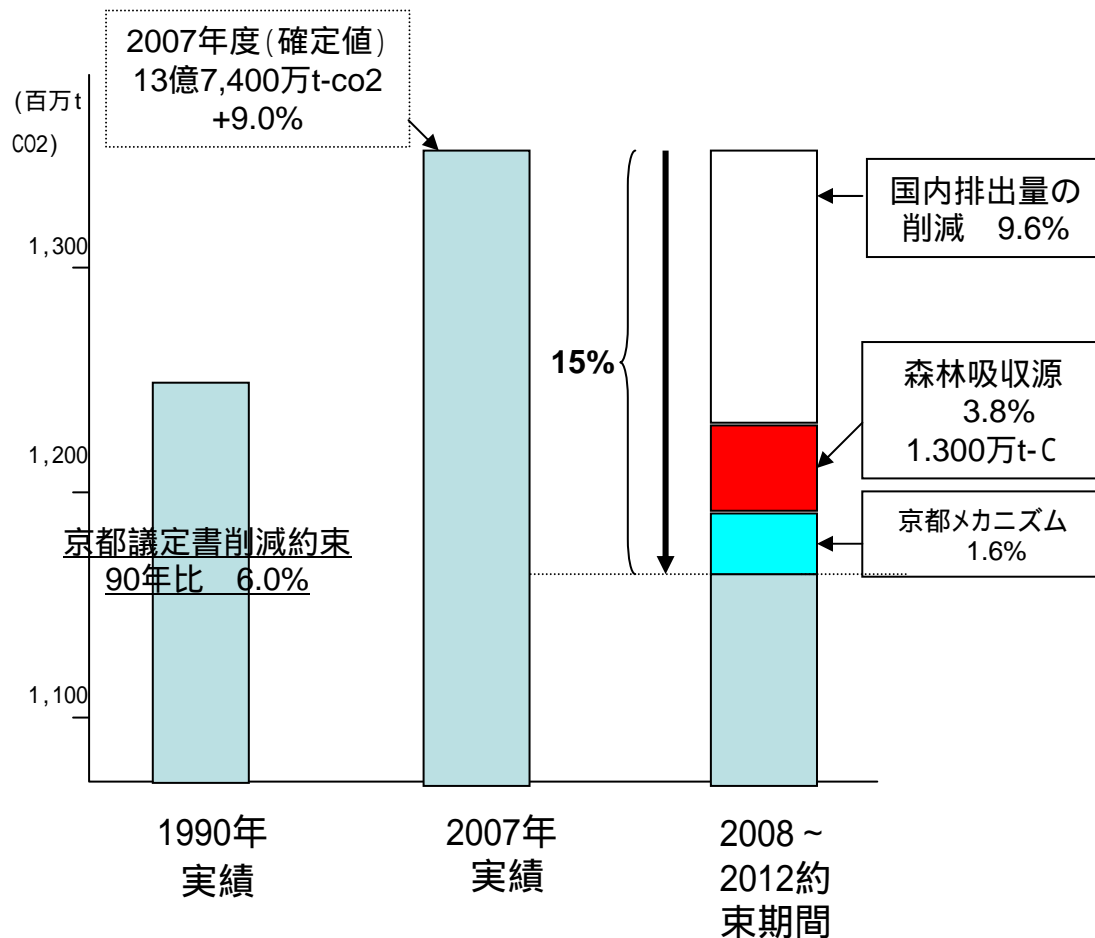
森林レクリエーションの意向調査では、野外スポーツ等に比べ「森林浴による心身のリフレッシュ」などを希望する人が多い

施設整備に関しては、「トイレ」や「歩道」などを望む人が多く、利用に際しては「案内表示」、「清潔感」、「景観との調和」などを求めている

レクリエーション利用者の嗜好の変化に応じた施設・サービスの提供が課題

森林による地球温暖化防止対策

温室効果ガス排出量の推移及び見通し



我が国の温室効果ガス排出量の推移及び見通し

「京都議定書」の採択により日本では、基準年(1990年)に比べ6%のCO2削減義務。

2007年度実績について、1990年基準年に対し、9%の増加となっている。

2007年度実績に対する、15%削減目標のうち、森林による吸収量の割り当ては3.8%

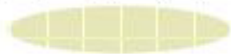
国有林の森林吸収源対策

京都議定書で森林吸収源と認められる森林(京都議定書3条3項、4項)

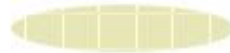
京都議定書で認められる森林は、1990年以降の人為活動が行われた森林で、「新規植林」、「再植林」、「森林経営」によるもののみ。新たな森林造成の可能性が限られている我が国においては「森林経営」による吸収量が大宗を占めることになる。

- 新規植林: 過去50年来森林がなかった土地に植林

対象地域はごくわずか



1962年



1990年



2012年

- 再植林 : 1990年時点で森林でなかった土地に植林

対象地域はごくわずか



1962年



1990年



2012年

- **森林経営**: 持続可能な方法で森林の多様な機能を十分に発揮するための一連の作業

人為活動の確保が課題



1962年



1990年



2012年

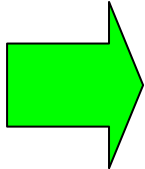
※ 過去に植林を進めてきた国については、新たな土地に植林する余地は乏しいが、これからも温暖化対策に貢献しうる点を評価し「森林経営」も組み込むこととされた。

国有林の森林経営

- 森林経営のイメージ

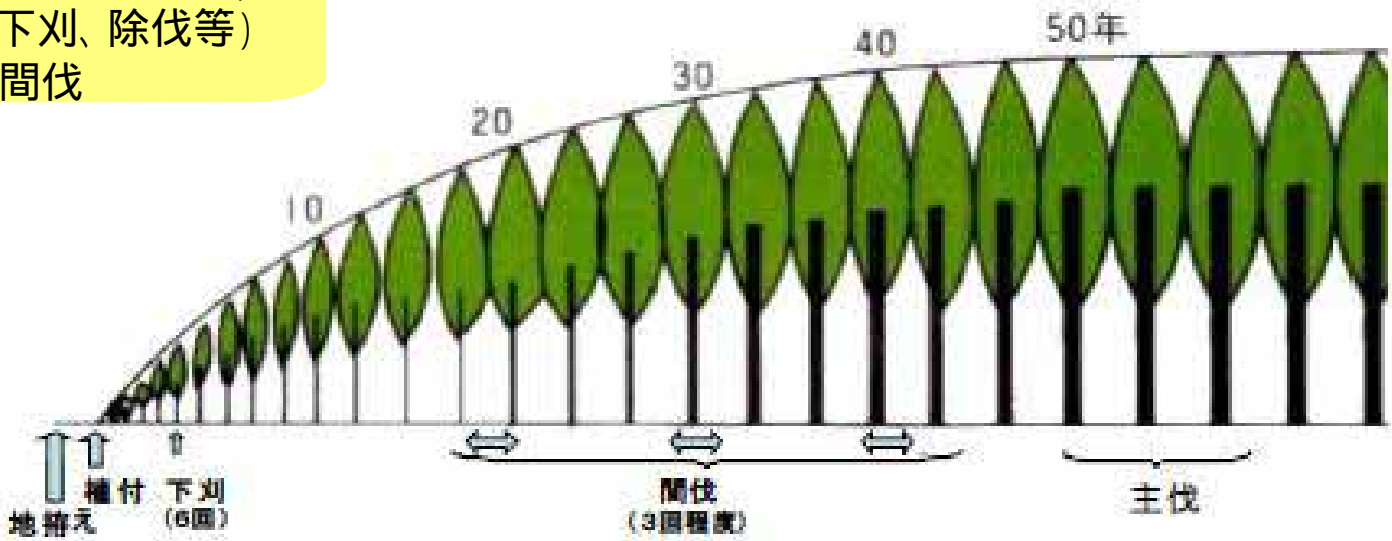
森林吸収源対策として、持続可能な方法で森林の多様な機能を十分に発揮するための一連の作業

1990年以降に森林施業が行われている森林



間伐等の森林整備を推進

- ・更新(地拵、植栽等)、
 保育(下刈、除伐等)
- ・主伐、間伐



森林計画の意義

無計画な
伐採や開発



森林の荒廃
森林資源の減少



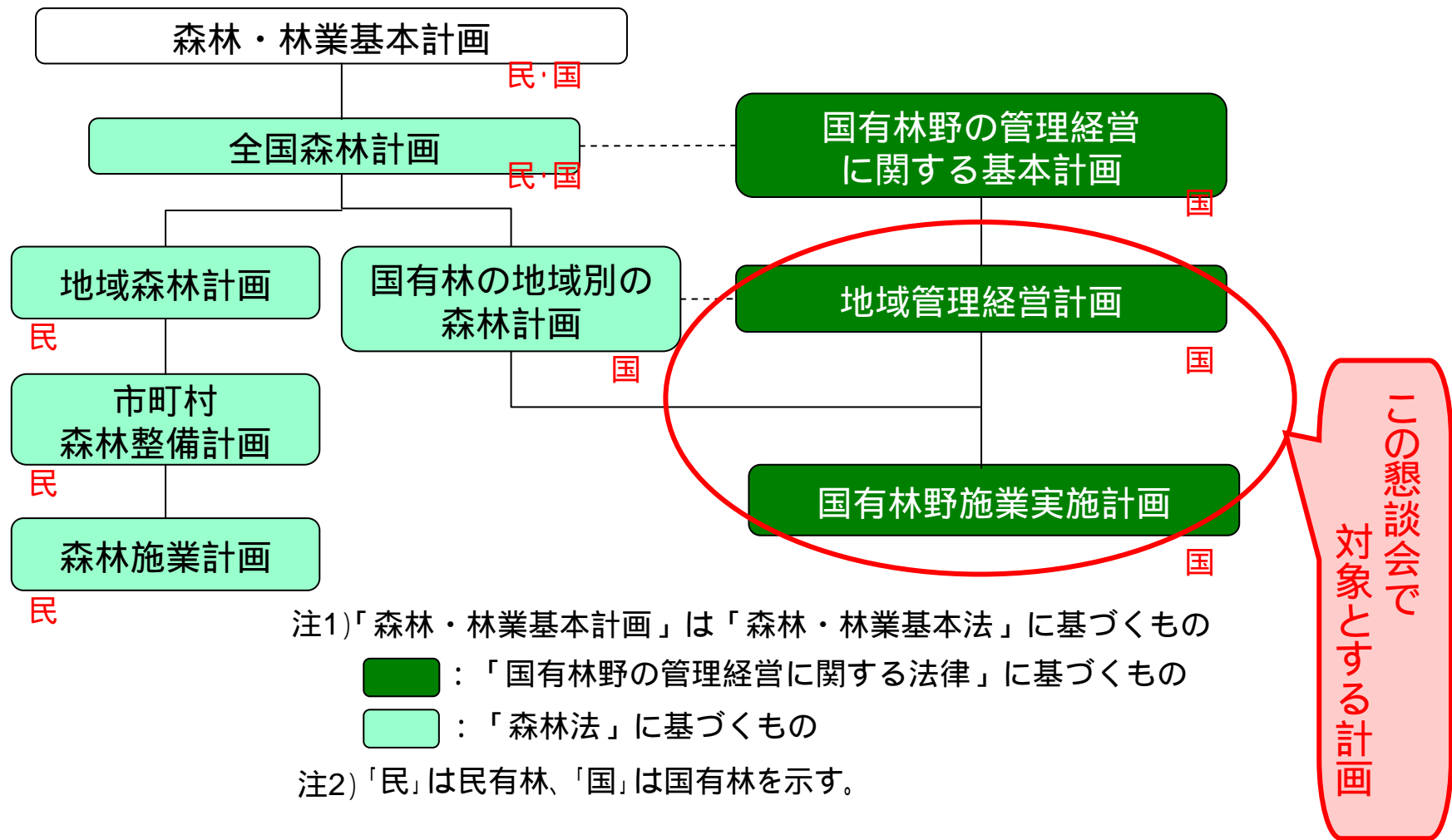
山崩れや風水害による災害発生
木材などの林産物供給への多大な混乱

につながります。

森林の造成には超長期の年月を要することから、長期的な視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要です。

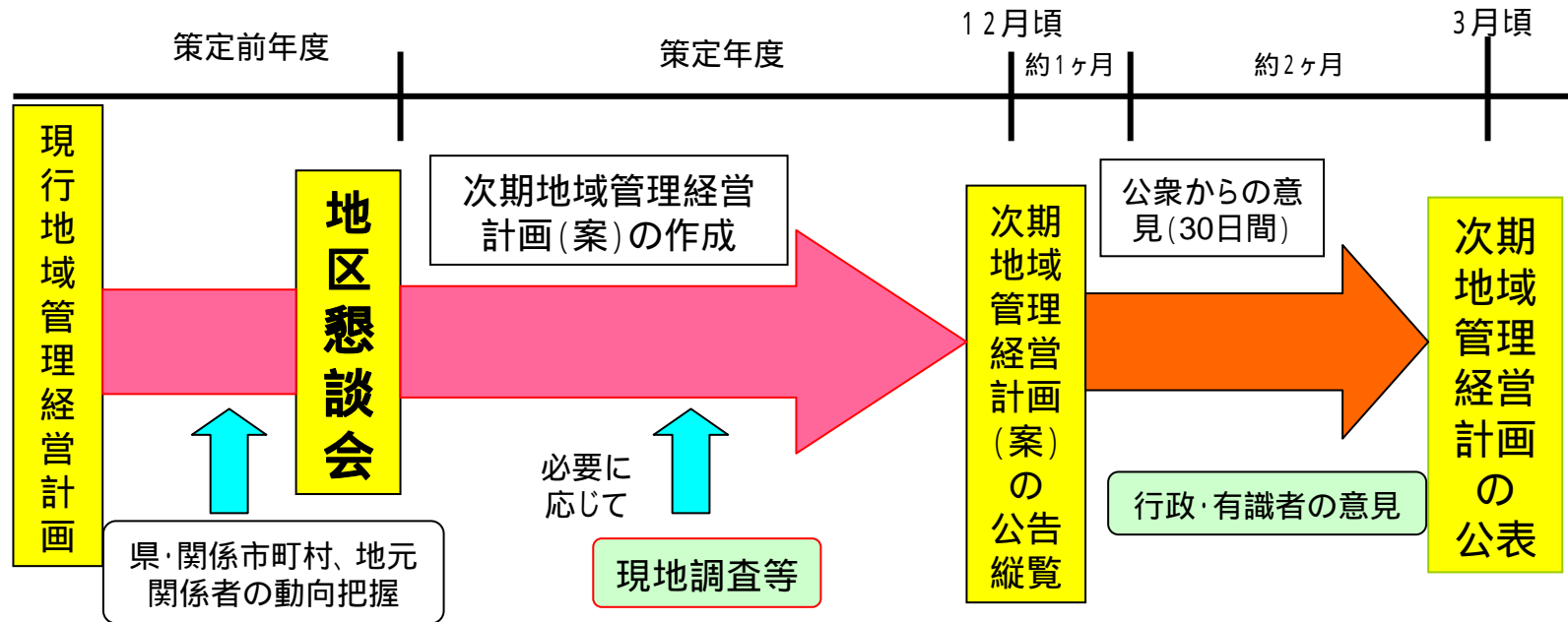
1. 我が国の森林計画制度について

無計画な森林の伐採・開発を抑制するための仕組み = 「森林計画制度」



森林計画策定の仕組みと地区懇談会の位置付け

● 地域経営計画等策定のプロセス



国有林野施業実施計画も同じ

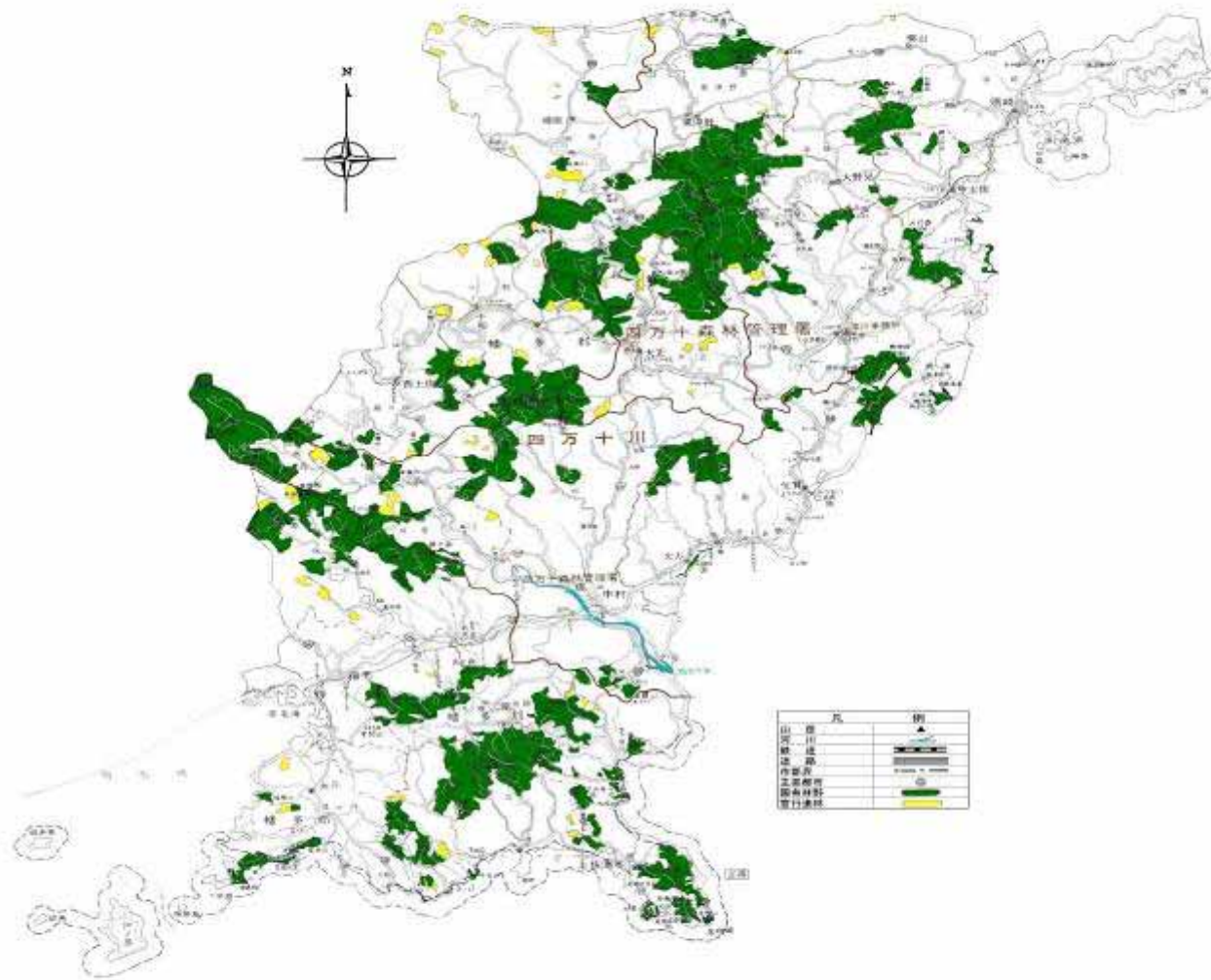
地区懇談会の位置付け

地域管理経営計画等の計画策定手続き前に多様な関係者が一同に会する場を設定

さまざまな地域情報
多様な地域の方々
関係者の意見を収集・反映

四万十川森林計画区の特徴

四万十川森林計画区の位置図



位置: 四国の南西部に位置し、高知県全面積の42%の高知県西部11市町村からなる。
四万十森林管理署

特徴: 「幡多ヒノキ」の名称で知られるヒノキの産地である。

計画区内の国有林

南西部太平洋に面し、西部は四国山地によって、愛媛県と境し、北部は四国山地南面の四国カルストにより、嶺北仁淀及び中予山岳・両森林計画区と接している。

鷹取山等の希少価値の高い植生や、不入山等自然景観に優れた天然林、足摺・宇和海国立公園等、四万十川の自然環境が注目されるなか、国有林の活用が、期待されている。

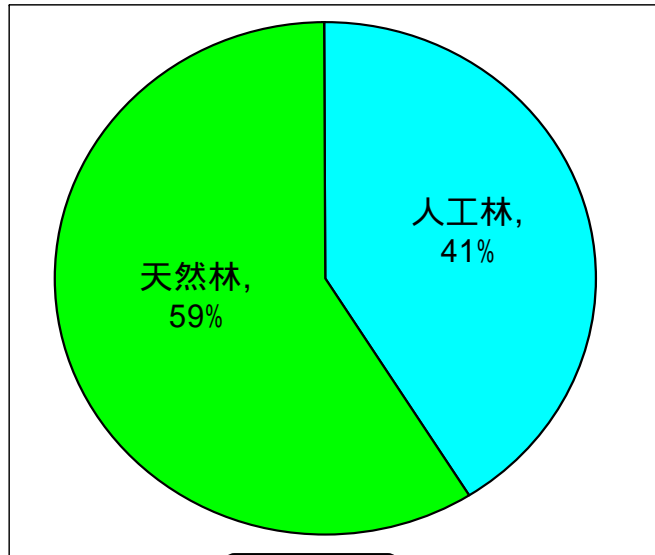
計画の対象とする森林の区域

区 分		面 積	管轄森林管理署等
総 数		54,565.91 (2,999.01)	
市 町 村 別 内 訳	須崎市	489.44	四万十森林管理署
	宿毛市	4,823.17 (365.20)	〃
	土佐清水市	6,504.89 (220.75)	〃
	四万十市	11,222.17 (556.14)	〃
	中土佐町	3,411.81	〃
	梶原町	3,393.32 (638.71)	〃
	津野町	2,752.55 (102.14)	〃
	四万十町	16,034.69 (1,006.57)	〃
	大月町	903.82 (109.50)	〃
	三原村	3,098.73	〃
黒潮町	1,931.32	〃	

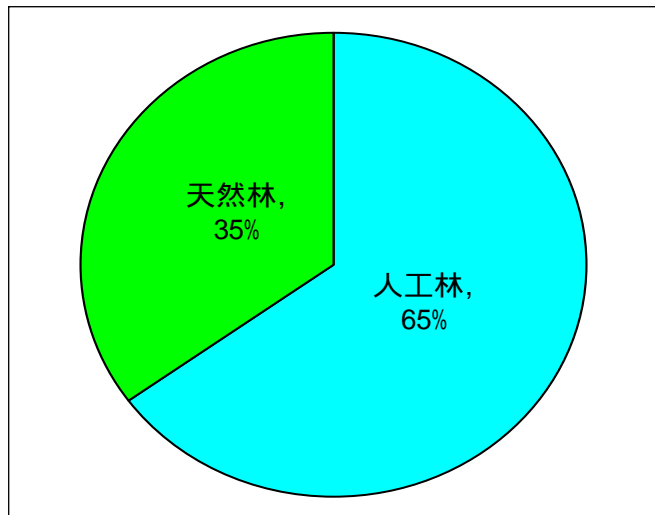
* ()書きは官公造林面積で内書きとする。

人工林と天然林の割合

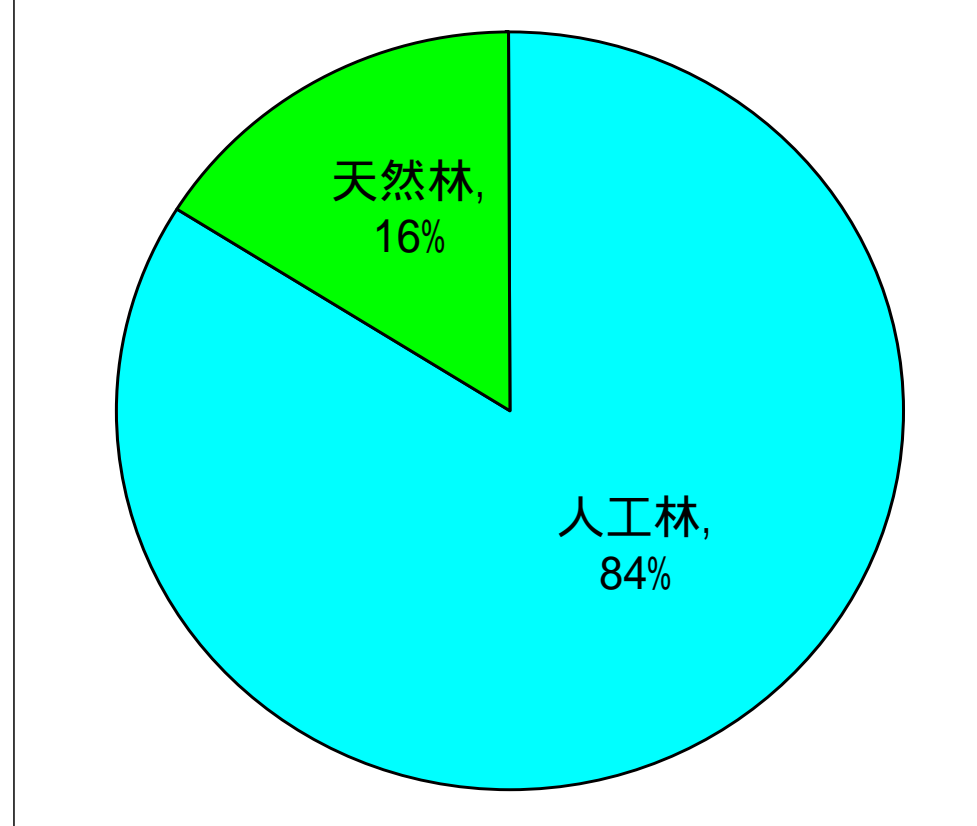
全国



高知県



四万十森林計画区の国有林野の
人工林・天然林の割合



四万十川森林計画区の国有林野は、四国の国有林の中でも人工林が多い。

注: 全国、高知県の人工林・天然林の割合は、林野庁業務資料
(平成19年3月31日現在)

機能類型とタイプ

国有林野を適切かつ効率的に管理経営するため、個々の森林を重点的に発揮させる機能に応じ、3つの区分に類型化。



「水土保全林」(対象面積46,961ha)

国土の保全や水源のかん養を通じて安全で快適な国民生活を確保することを重視する森林(国土保全タイプ、水源かん養タイプ)



「森林と人との共生林」

(対象面積3,390ha)

貴重な自然環境や、自然とのふれあいの場を提供することを重視する森林

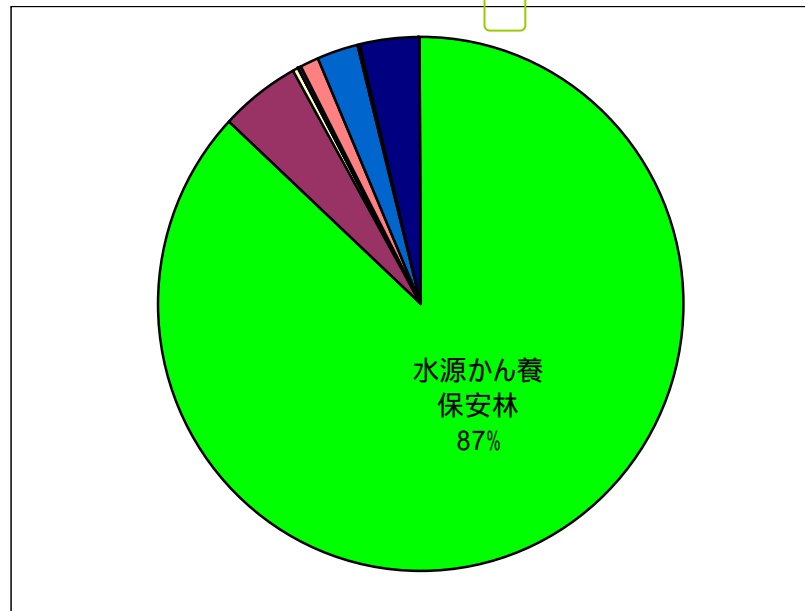
(自然維持タイプ、森林空間利用タイプ)



「資源の循環利用林」(対象面積4,215ha)

公益的機能の発揮に配慮しつつ、効率的に木材等の林産物の生産を行うことを重視する森林

保安林・自然公園等の種類



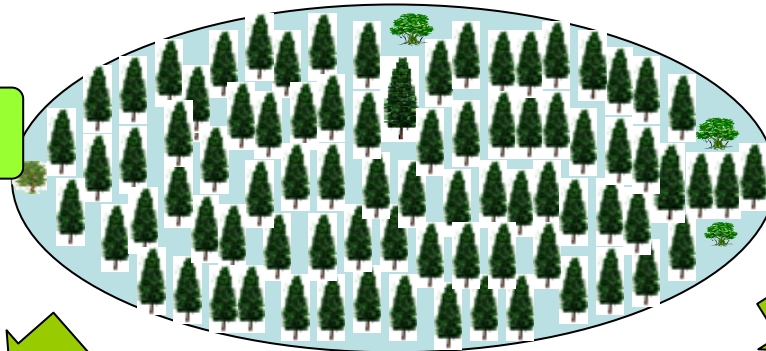
種類	細分	面積
保安林	水源かん養保安林	44,016.26
	土砂流出防備保安林	2,637.01
	土砂崩壊防備保安林	56.25
	暴風保安林	34.34
	潮害防備保安林	128.51
	干害防備保安林	574.27
	魚つき保安林	1,308.26
	航行目標保安林	42.59
	保健保安林	1,890.15
	計	48,006.57
足摺宇和海 国立公園	特別保護地区	283.67
	第1種特別地域	172.24
	第2種特別地域	558.38
	第3種特別地域	837.59
	計	1,851.88
都道府県立自然 公園	四国カルスト普通地区	363.53
	宿毛普通地区	4.02
	入野普通地区	36.42
	興津普通地区	166.08
	計	570.05

第三次計画の概要

多様な森林づくりの推進

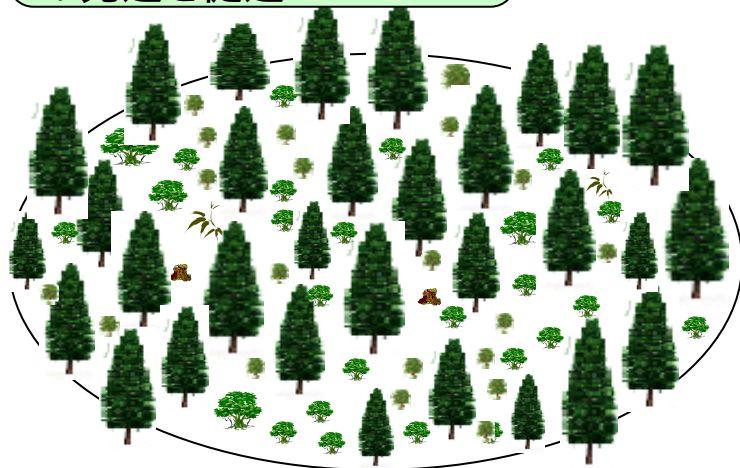
四万十川森林計画区の国有林の約9割が水源かん養保安林として指定されているほか、国立公園や自然公園、レクリエーションの森など多様な森林によって構成されており、森林の公益的機能の高度発揮が求められることから、適切な保育、間伐を進めるとともに、複層林化や伐期の延長による長伐期施業への転換を図っている。

現状の林相



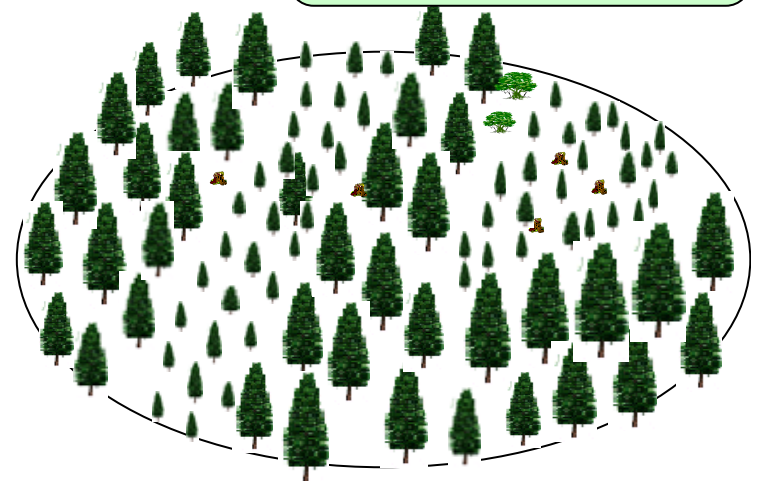
長伐期林

間伐を繰り返し下層植生の発達を促進



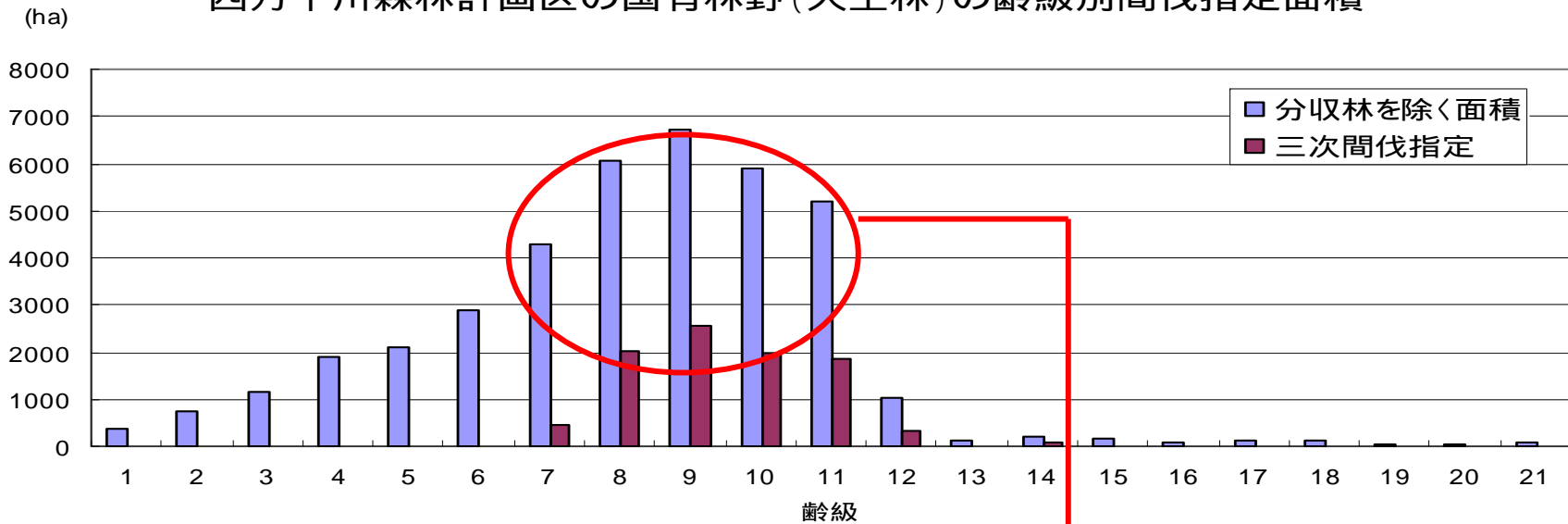
複層林

群状、带状伐採による

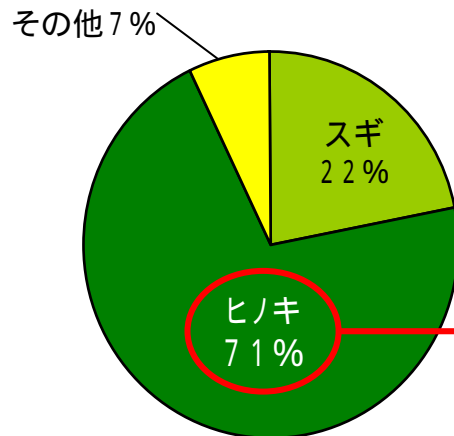


第3次計画の概要(人工林)

四万十川森林計画区の国有林野(人工林)の齢級別間伐指定面積



人工林の樹種割合



人工林の齢級別面積では、6～11齢級が7割を占めており、適切に森林整備を行っていく必要がある。

人工林の樹種割合では、ヒノキが7割強を占めている。

第三次計画の概要(伐採計画)

国有林は公益的機能の発揮を主な目的としていることから、木材生産の主体である主伐より、間伐による森林整備を図っています。

第3次計画	伐採総量(m ³)
主伐	231,756
間伐	804,242



作業路網を用いた集材作業

間伐材等搬出作業道 (単位:m)

区分	19年度	20年度	21年度	計
路線数	4	2	7	13
延長	5,199	3,229	8,130	16,558

路線数、延長とも増加傾向
間伐の作業効率が向上
資源の有効利用が拡大

高密度作業路網 (単位:m)

区分	15年度以前	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	計
路線数	6	2	5	14	8	13	12	60
延長	16,230	3,888	17,921	31,243	30,743	51,438	48,639	200,102



第三次計画の概要(造林計画)

- 更新総量: 人工造林 472ha [年平均 87ha]
天然更新 12ha (天然下種) [年平均 2ha]
- 保育総量: 下刈 1,463ha [年平均 293ha]
つる切 31ha [年平均 6ha]
除伐 1,112ha [年平均 26ha]

植付



下刈



除伐



第三次計画の概要(林道・治山)

治山施設数量

保全施設

溪間工46箇所 山複工6箇所

保安林の整備

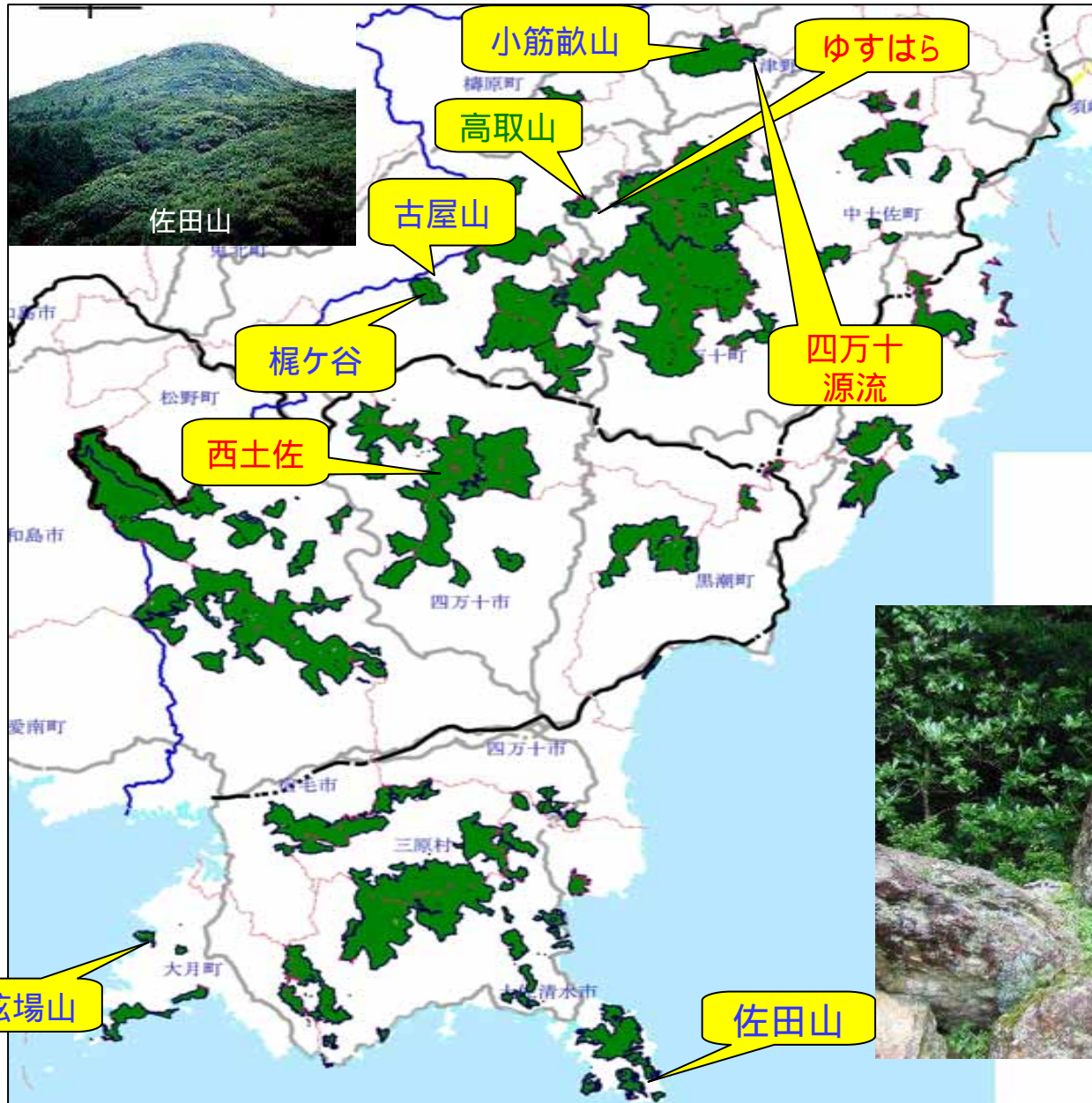
その他 1,237ha



林道等建設延長

開設	31箇所	28,190m
改良	176箇所	51,300m

第三次計画の概要(保護林等)



林木遺伝資源保護林
佐田山、弦場山
古屋山、楳ヶ谷
小筋畝山

植物群落保護林
高取山

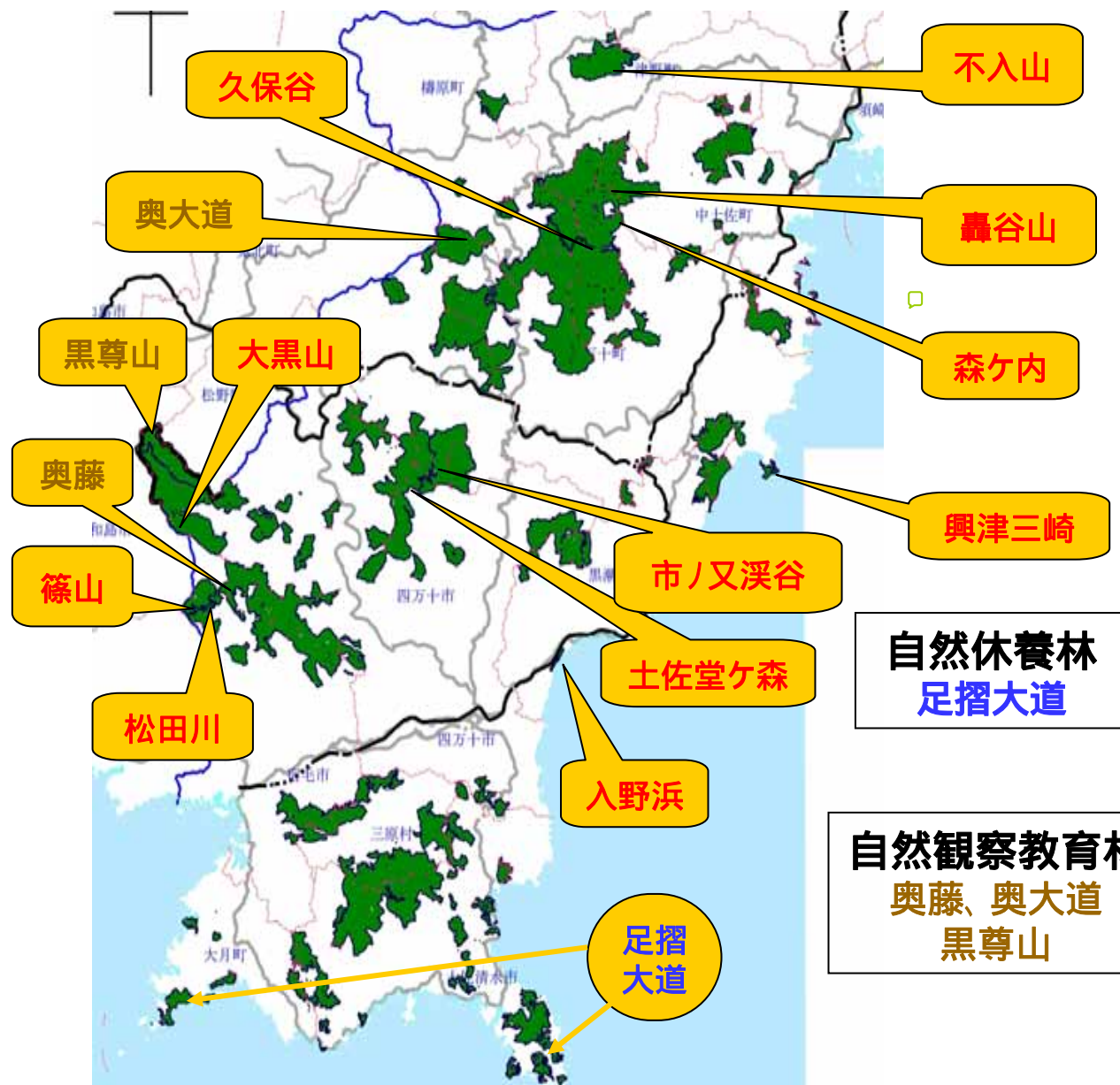
郷土の森
西土佐、ゆすはら
四万十源流



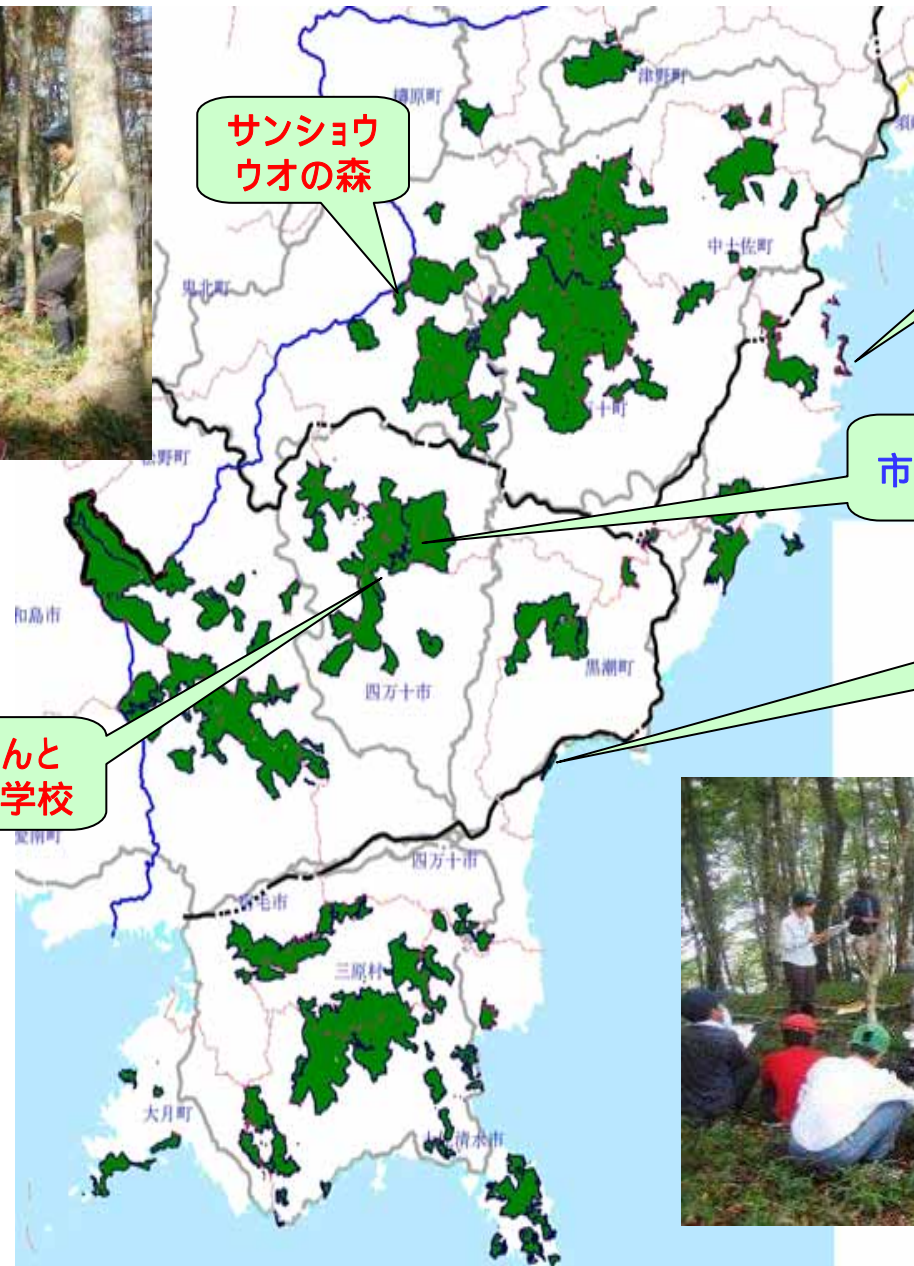
第三次計画の概要(レクリエーションの森)

風景林

篠山
 松田川
 大黒山
 入野浜
 土佐堂ヶ森
 久保谷
 市ノ又溪谷
 森ヶ内
 興津三崎
 轟谷山



第三次計画の概要(ふれあいの森・遊々の森等)



ふるさと
灘山

市ノ又山

夢の森
かがやきの森

しまんと
山の学校

ふれあいの森
市ノ又山

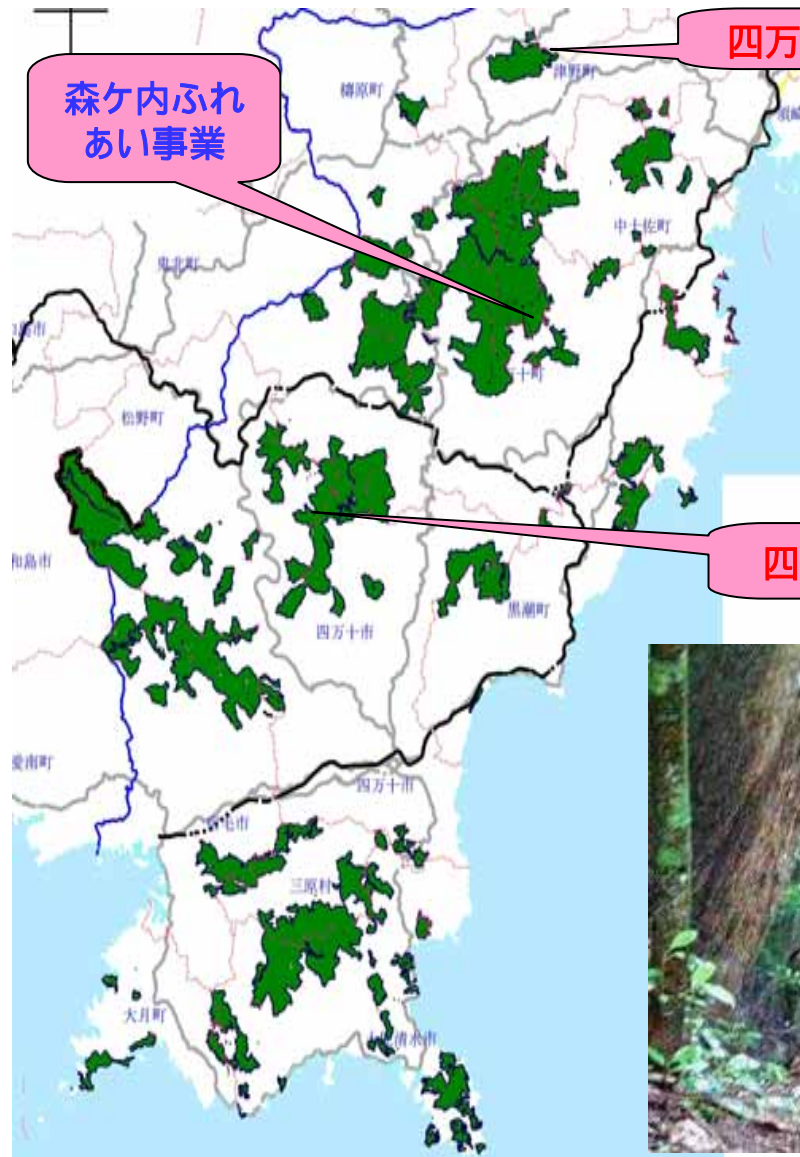
遊々の森
ふるさと灘山
サンショウウオの森
しまんと山の学校
ゆめの森
かがやきの森



第三次計画の概要(社会貢献の森・巨樹・巨木)



四万十源流のモミ



森ケ内ふれあい事業

四万十源流のモミ

社会貢献の森
森ケ内ふれあい事業

巨樹・巨木
四万十檜仙人
四万十源流のモミ

四万十檜仙人



四万十檜仙人

四万十ふれあいセンターの事業

黒尊山自然再生推進モデル事業



大道マツ・森林生態系保全・再生事業

試験地



アカマツ 125 本

アカマツ保護林

森林環境教育普及推進活動

